

# 地域課題の解決に向けた取組

## 造林作業の効率化に向けて

### 十勝東部森林管理署

十勝東部森林管理署では、人工林約28千haのうち林齢が50年生以上のカラマツの占める割合が高く、多くが主伐を行う時期を迎えています。このため、森林の持つ公益的機能を最大限発揮、維持しつつ、主伐後に行う再造林については、労働軽減とコスト縮減に取組み、計画的な森林整備を推進する必要があります。

#### 1 地域共通の課題

民有林においても多くのカラマツが主伐期を迎えており、伐採後の再造林により地拵え、植付け、下刈り等の造林作業量が今後大幅に増加し、併せて、造林作業の担い手の確保、人力作業の中でも特に労働負荷の高い下刈りの軽労化やコストの縮減が、喫緊の課題となっております。

#### 2 課題解決に向けた取組

当署ではこれまで、造林作業のコストの縮減と省力化を図るため、伐採から造林まで一括発注し、伐採・搬出後に直ちに機械で地拵

えを行い作業の効率化と労働の軽減を図る一貫作業システムを導入や、植えやすくなる植栽の適期も広く、活着率や初期成長に優れる等のメリットを活かしたコンテナ苗の植栽を積極的に導入し、民有林関係者に、これらの取組を紹介し、普及に努めています。

令和元年度の現地検討会  
十勝総合振興局、管内自治体、森林組合のほか林業関係者が数多く参加。

①大型機械での下刈作業  
下刈作業の軽労化や担い手不足を解消するため、機械で作業が可能となる地拵え及び植付けの仕様を提案し、実際に現地検討会でデモンストレーションし検討しました。  
現在の仕様では機械の能



高性能林業機械による下刈りのデモンストレーション

力を十分に発揮しにくいなどいくつかの問題点を検証することができ、次年度に向け仕様等を再検討することとしました。

②コンテナ苗の生育状況と下層植生の回復状況  
笹の根茎を除去する機械

による地拵箇所に、一昨年に植栽したカラマツのコンテナ苗について、生育状況と下層植生の回復状況を確認し、下刈作業の省略など省力化につながる取組として紹介しました。

十勝管内民有林においてもコンテナ苗の植栽が年々増加傾向にあり、普及につながっています。

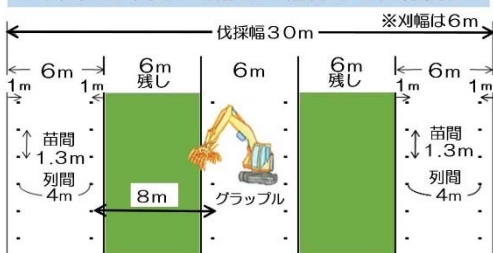
#### 3 これからの取組

令和2年度は機械での下刈作業について、これまでの検討結果を踏まえ新たな仕様等を検討しており、現地検討会を開催する中で、民有林への普及に努めていきます。

また、今後は、増加する更新面積に対応した、天然更新の取組も同時に実施していく必要があると考えています。

#### 機械での下刈作業の検討

##### <令和2年度 地拵え・植付けの仕様例>



##### <令和元年度 地拵え・植付けの仕様例>



コンテナ苗現地検討会